2015年度ヘアケア市場を調査

矢野経済研究所

矢野経済研究所は、2016年4～7月にかけて、ヘアケア市場参入業者、その他関連団体、業界団体等を対象に、国内のヘアケア市場（毛髪業市場、植毛市場、発毛・育毛剤市場、ヘアケア剤市場の4分野）の調査を実施した。

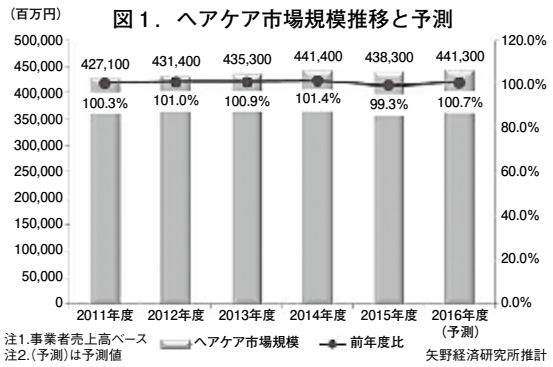
2015年度の国内のヘアケア市場規模は、事業者売上高ベースで前年度比0・7％減の4383億円となり、分野別では植毛市場、発毛・育毛剤市場が伸長した。

毛髪業の市場規模は前年度比0・1％増の1402億円だった。女性用を中心に低価格品を投入し、新規需要の開拓を行う新規参入企業が台頭してきている。また、女性は新規にかつらを購入する際には抵抗感があるともいわれており、こうした新規ユーザー層をターゲットにした女性用部分かつら市場も活性化してきている。今後も毛髪業市場は国内の女性用需要を中心に堅調に推移するとみられる。

植毛の市場規模は前年度比5・1％増の41億円だった。植毛市場は大手クリニックの積極的なプロモーション戦略により、新規患者の開拓が行われ成長してきたが、一方で新規クリニックの参入も増加し、競争が激しくなってきている。近年では薄毛に悩む女性や若年層が増加してきているといわれ、こうした顧客層に対する積極的な取り込みも活発化してきている。

発毛・育毛剤の市場規模は前年度比2・8％増の672億円だった。主に店頭販売される一般流通と医家向け流通市場が拡大したことにより、好調に推移した。一般流通についてはライトユーザー向け育毛剤を強化するメーカーが増加しているとともに、シャンプーやリンスといった関連商品を強化することでブランドの拡大・総合化を図る動きもある。医家向け流通については、同市場が好調であることから、新規参入メーカーが増加し、競争が激しさを増している。また低価格なジェネリック製品も登場してきていることから、今後の市場拡大が期待される。

図1．ヘアケア市場規模推移と予測



注1.事業者売上高ベース
注2.(予測)は予測値
矢野経済研究所推計

富士経済

2016年メークアップ市場を2・3％増の5163億円と予測

富士経済は、2015年のメークアップ市場をカウンセリング・セルフブランドともにインバウンド需要を取り込み、前年比3・5％増の5047億円と予測した。2016年も続伸するとみており、前年比2・3％増の5163億円と見込む。

2015年のベースメーク市場（2858億円）は、国内需要がBB（CC）訴求品の使用からステップを踏んだベースメークへ回帰する動きが加速し、各メーカーがメークトレンドである透明感や艶感のある仕上がりを実現する高機能なリキッドファンデーションの拡販に努めたことにより、ファンデーションが伸びた。それに伴い自然な肌質に見せるフェイスパウダーの需要も連動して増加した。また、外資系メーカーから新規剤型であるクッションファンデーションが発売され、自然な仕上がりがユーザーに受け入れられ需要を獲得した。

2016年の同市場は1・6％増の2905億円を見込む。透明感を持った自然な仕上がりのメークトレンドが続いているため、薄付きながらカバー力があり、高いキープカを持った機能性商品の需要が高まっている。また、新規剤型のクッションファンデーションが国内メーカーからも発売され、市場の活性化が期待される。

2015年のポイントメーク市場（2189億円）は、口もとに重点を置いたメークがトレンドとなったことで、外資系プレステージブランドのリップカラーが、百貨店で若年層を含む幅広い層の需要を取り込んだ。また、インバウンド需要を取り込む動きが本格化したこともあり、ポイントメーク市場は大きく拡大した。

2016年の同市場は3・2％増の2258億円を見込む。

リップカラーがクッション型アプリケーターやティントタイプなど新規性の高い剤型の発売により好調である。アイブロウ、アイライナー、マスカラは単品訴求のアイメークブランドのアイテムが引き続き伸びている。ケア意識の高まりやSNSを活用しネイルアートへの興味関心を喚起する動きもみられる。

ヘアケア剤市場規模は前年度比2・2％減の268億円だった。スカルプケアを訴求する商品が引き続き好調に推移したものの、その他の商品は軒並み低調に推移した。団塊ジュニア世代以上の女性をターゲットにしたエイジングケア訴求ブランド製品や、スカルプケアや地肌ケアなど頭皮のケアを訴求したブランドが増加してきている。また、主要メーカーでは自然派・オーガニック訴求商品の開発を強化してきており、今後もこうした流れが継続するものとみられる。

私のH＆B日記

手芸

気温が下がってくると、私の中では編み物のシーズンが到来する。毎年せっせと編みはじめるのだが、今年は少々例年とは違う。

実は、姉夫婦に子供ができ、12月に出産予定なのだ。私の両親も初孫で舞いあがっているが、1つだけ母にとって気がかりなことがある。姉がおくるみなどを手作りしていないのだ。専業主婦で家にいるため「一体普段何をしているんだろう」と不思議に思っている。

元々、姉は手芸があまり得意ではなく、進んでやろうとは思わない。今回もその傾向がでていて、「別に作らなくてもいいでしょ」と言って憚らない。姉と同じく手芸が苦手な母（というより姉が母に似たのだが）は「私ですらあんたたちを妊娠している時に作ったのに！」と言っている。

さて先日、母と一緒に買い物に出かけた際、私は今年編む毛糸を見つくろいに毛糸ショップを訪れた。そこにはベビー用品の展示があり、「これだ！」と思った母に、ベビー用おくるみと帽子を白とピンクの毛糸で編むように任命された。叔母からのプレゼントでおくるみってどうなんだろうとは思ったが、母が姉を出産した際、母の弟の妻から似たようなプレゼントをされたらしい。「だから大丈夫！」と言われた。

実は、もう一つ理由がある。姉の赤ちゃんは、妊娠してから担当医にずっと男の子だと言われていた。産まれたら女の子で驚いたとよく言われるため、妙に親近感が湧いている。産まれる前までに完成させたいと思うが、「産まれたら男の子だった！」という事態になったらどうしようかと少々不安に思っている。（黒）

言われていたが、ついに最近、女の子だったことが判明した。てっきり男の子だと思っていたため、男の子用の服やグッズをすでに買ってしまっていたのだ。「せめて女の子用のおくるみや帽子を！」という祖母の思いやりらしい。出資者・祖母、製作者・叔母の分担で、せっせと編んでいる。

面白いことに、私も誕生月が12月で、産まれるまで男の子だと言われていた。産まれたら女の子で驚いたとよく言われるため、妙